

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|-------------------|----|------------|
| ○事業所名 | 放課後等デイサービス おむすびやま | | |
| ○保護者評価実施期間 | R7年12月1日 | | ～ R8年1月31日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 20 | (回答者数) 10 |
| ○従業者評価実施期間 | R7年12月1日 | | ～ R8年1月31日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 10 | (回答者数) 9 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | R8年2月19日 | | |

○分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|--|--|
| 1 | こども一人ひとりの特性や発達段階に応じた個別支援を大切にしながら、集団活動とのバランスを取り、安心して過ごせる環境づくりができてきている点が強みである。 | 日々の支援においては、職員間での情報共有や振り返りを重視し、こどもの小さな変化にも気づける体制づくりに努めている。また、保護者との連携を大切に、日々の様子を丁寧に伝えながら信頼関係の構築に取り組んでいる。 | 今後は職員研修の充実や外部機関との連携を強化し、専門性の向上と支援の質のさらなる向上を図っていく。 |
| 2 | 多様な活動(創作活動・体験活動・地域との関わり等)を通じて、こども達の「できた」「楽しい」という経験を大切に、自己肯定感の向上につながる支援ができてきている点が強みである。 | 活動プログラムが固定化しないよう、季節行事や地域資源を活用した取り組みを積極的に取り入れている。また、職員間での話し合いや振り返りを行いながら、こども一人ひとりに合った関わり方を工夫している。 | 今後は地域との連携をさらに深めるとともに、外部との交流機会を増やし、社会参加や経験の幅を広げる支援を充実させていく。 |
| 3 | 職員間の連携が図られており、日々の支援に対する振り返りや改善を継続的に行うことで、支援の質の向上に組織的に取り組んでいる点が強みである。 | 支援前後の打ち合わせや記録の徹底により、こどもの状況や支援内容の共有を図り、一貫性のある支援を行っている。また、保護者からの意見や要望についても積極的に取り入れ、運営改善につなげている。 | 今後はPDCAサイクルをより明確に運用し、記録やデータを活用した客観的な評価と改善を進めることで、より質の高い支援体制の構築を目指していく。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|---|--|
| 1 | 支援内容やこどもの状況に関する情報共有について、職員間で認識のばらつきが生じる場面がある。 | 日々の業務の中で記録や伝達方法が統一されていないことや、情報共有の時間が十分に確保できていないことが要因と考えられる。 | 記録様式の統一やICTの活用などにより情報共有の効率化を図るとともに、支援前後の打ち合わせを充実させ、職員間の共通理解を深めていく。 |
| 2 | 活動内容や支援の幅について、さらなる充実を図る余地がある。 | 日々の支援の安定運営を重視する中で、新しい取り組みや外部との連携機会の拡充が十分に進められていないことが要因である。 | 地域資源の活用や他事業所・関係機関との連携を積極的に進めるとともに、職員間でのアイデア共有の機会を設け、活動内容の多様化と支援の質の向上につなげていく。 |
| 3 | 支援の質の評価や改善に関する仕組みについて、より体系的かつ客観的な運用の強化が必要である。 | 日々の記録や振り返りは実施しているものの、それらを分析・評価し、継続的な改善につなげる仕組みが十分に整理されていないことが要因である。 | PDCAサイクルを明確にし、定期的なモニタリングや評価の機会を設けることで、支援の質を客観的に見直す体制を構築する。また、職員研修を通じて評価・改善の視点を共有し、組織全体の質の向上を図っていく。 |